

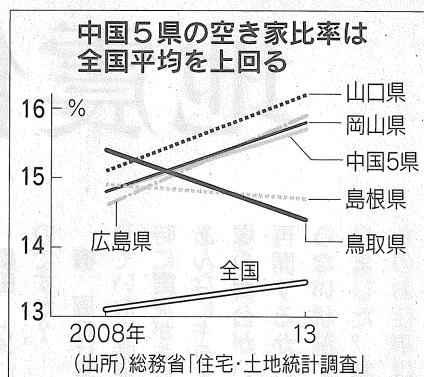


5県企業

空き家管理 参入相次ぐ

中国地方で空き家管理サービスに参入する企業が相次いでいる。シロアリ防除の山陰アペックス(松江市)は鳥取県の同業者と広域でのサービス提供に乗り出した。リフォームや建設分野の企業による取り組みも増えている。人口減で社会問題化する空き家を適切に管理すれば資産価値を維持し売買促進につながり、市場拡大が期待できそうだ。

人口減で増加 販売も視野に



松江市が開催した官民連携事業の促進イベントに参加した山陰アペックス
(2月中旬)

中国5県の空き家は20
総務省の住宅・土地統
計調査(速報)によると
13年10月時点では55万6
500戸。全戸に占める
空き家比率は15・7%で
全国平均を約2.4%上回
る。居住者の死去や転居
などで、数、率とも08年
の前回調査を上回った。
荒れた空き家の増加は
景観や治安の悪化につな
がる。自治体は持ち主に
空き家の適切な管理を求
めており、管理サービス
の需要は一段と高まる公
算が大きい。適切な管理
を継続すれば将来借り手や
買い手が付く可能性もあり、企業にとっては手数
料収入も期待できる。

すでに将来の販売をにらんだ動きもある。リフォーム業のMARUYAMA(広島市)は12年に空き家管理代行を始めた。累計約30件を受託し、現在は約10件を管理中だ。今後は取引マッチングも手掛けたいという。丸山健吉社長は14年10月に一般社団法人実家空き家サポート協会を設立。相続時の処分方法などの相談に無料で応じてい
る。

不動産業の参入も相次ぐ。アップ・グレイド(広島市)は空き家管理に加入した。「空き家を放置しない」と。仲介するビジネスについても処分の際に買い取つた。今後は自治体との連携

が1つの課題だ。山陰アペックスは2月中旬、松江市が開いた「共創・協働マーケット2015」に出展。空き家情報の交換や行政からの業務委託など協力の可能性を探つた。

いよう求める啓発活動が重要になると東孝昭社長は話す。建設・不動産の京王(山口県下関市)も処分の際に買い取つた。「空き家を放置しない」と。仲介するビジネスについても処分の際に買い取つた。今後は自治体との連携